

経営比較分析表（令和6年度決算）

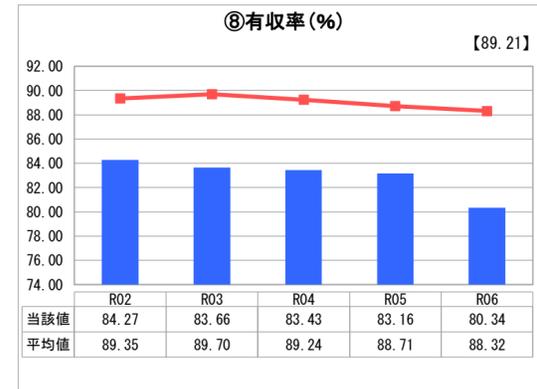
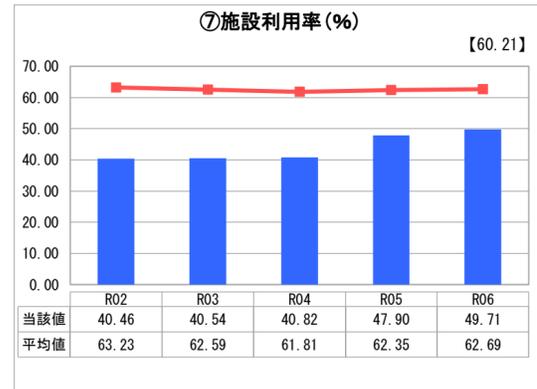
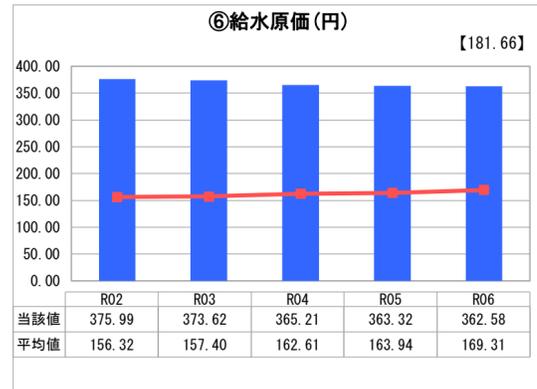
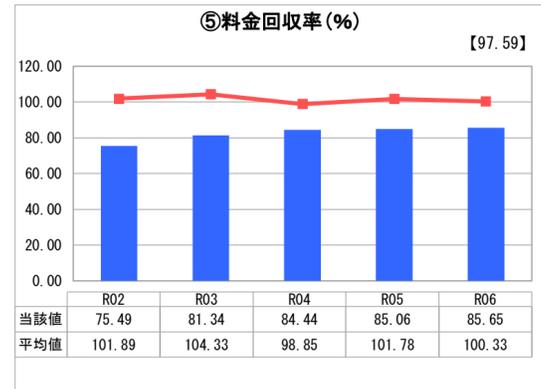
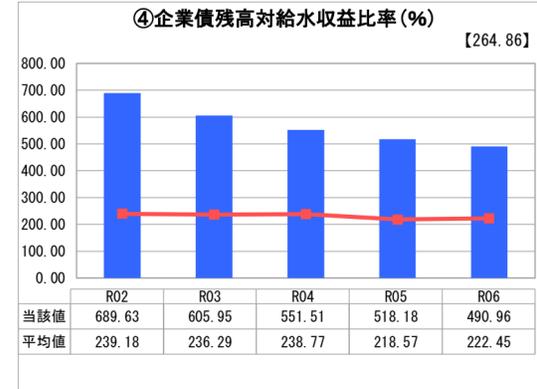
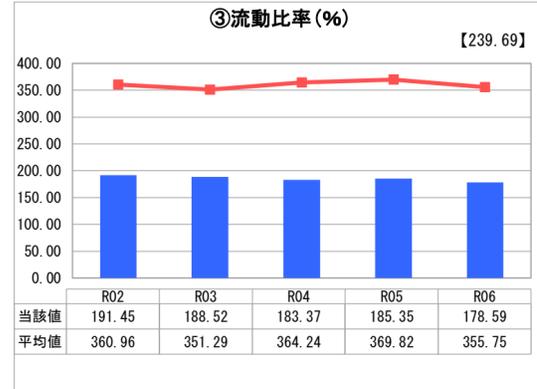
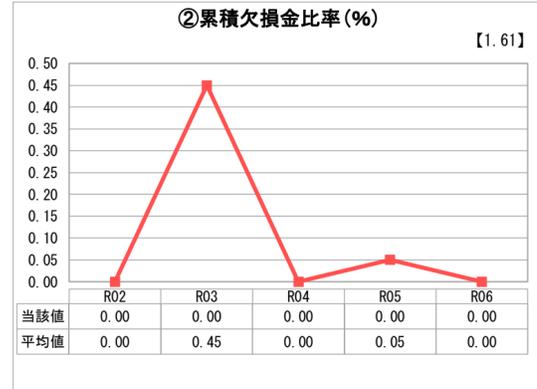
兵庫県 淡路広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.03	99.53	4,510	

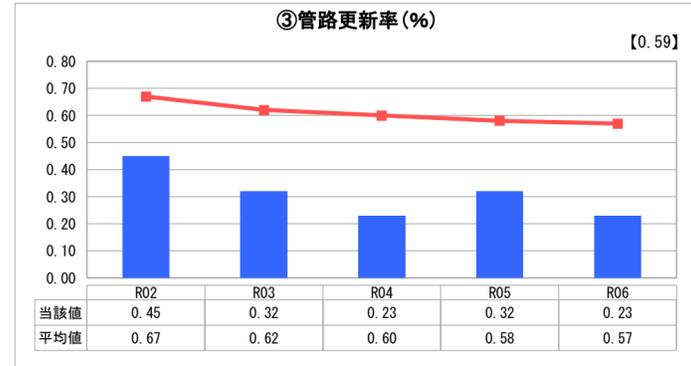
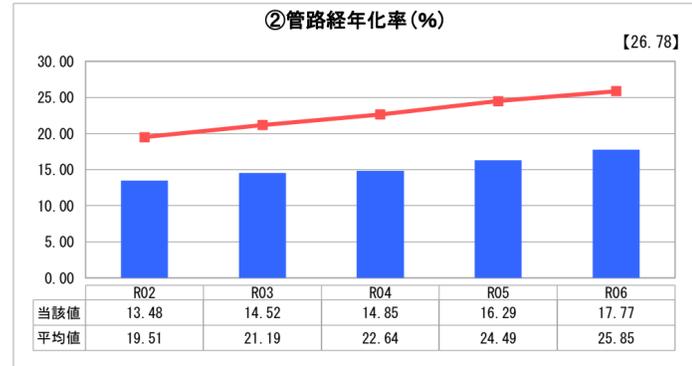
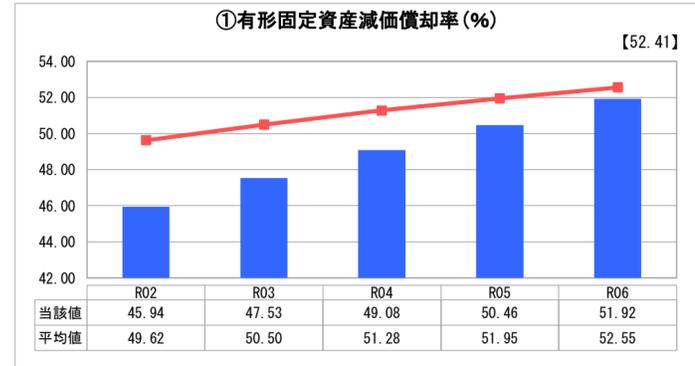
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
124,473	365.21	340.83

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、補助金等の減少により、前年度から下落しましたが、100%以上を維持しています。
- ② 累積欠損金は発生しておらず0%です。
- ③ 流動比率は、流動負債の内、未払金の増加等により、前年度に比べ下落しています。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、企業債残高の減少から、下落しています。
- ⑤ 料金回収率は、供給単価の上昇に加え、支払利息等の減少により給水原価が低下したことから、改善しています。
- ⑥ 給水原価も、支払利息等が減少したことから、改善しています。
- ⑦ 施設利用率は、概ね横ばいで推移していますが、今後は、基幹浄水場のダウンサイジング等の実施により改善を図ります。

- ⑧ 有収率は、漏水調査と管路更新に取り組んでいますが、近年、下落傾向にあります。今後は、重要管路の計画的更新や漏水調査の充実等により、改善に取り組めます。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、類似団体の平均値を下回っているものの、今後も上昇する見込みです。
- ② 管路経年率は、類似団体の平均値を下回っているものの、今後も上昇する見込みです。
- ③ 管路更新率は、地理的要因から管路延長が長いこと等が影響し、類似団体より下回っていますが、引き続き、国等の財源措置を活用しながら、重要給水施設などへの主要管路の更新を優先的に進めます。

全体総括

淡路地域は水資源に乏しく、また山間部を多く有し高低差が大きい地形のため、施設数や管路延長が長く、類似団体と比較して資本費が高くなっているのが特徴です。
今後も、人口減少は見込まれるものの、島内への観光客数の増加により、水需要の減少幅は鈍化しています。
一方、物価高騰の影響を受け、建設コストや維持管理費の更なる増嵩も見込まれることから、施設のダウンサイジングや長寿命化などにより経営の効率化を図りながら、持続可能な事業経営に取り組んでいきます。